

日泰辭書原稿 「ク」の部（ク）  
より「ク」まで

- 第一次検討（主として用例） 木村
- 第二次検討（助詞其他） 淺野 ✓
- 第三次検討（品詞分類） 中島
- 第四次検討（余数） 長沼 ✓

89.

MM 11

ク

句

(名)

又法用語

一△ 文章中の一句句で完全な文としての意味を有する句を指す。

○ 名詞句 副詞句

○ 本を讀む時は一句一句はつかりよみかた。

(二) 俳句の事

- 古池や蛙とびて水の音は芭蕉の有名な句也。
- 句の會で句を作る。

4  
ジ  
ヨ  
下

○川  
端  
の  
柳  
は

ち  
い  
や  
う

「地  
上」

(左)

海  
上

江  
上  
の  
事  
事

の  
事  
事

の  
事  
事

の  
事  
事  
の  
事  
事

9  
部

（  
）

日本教育振興会

( )

〔苦〕 (石)

1. 骨折

○あれだけの大きな仕事をあの人は何の苦もびくやり遂げた。

2. 心配、氣づかい

○これくらいの暑は少しも苦にならぬ。

○あの人は一寸した事を苦にする。

○あの小説家は人の批評など一向苦にしな

い。

○物事を一々苦にしなるときりがない。

◎ 苦は樂り種 (句)

現<sup>在の</sup>苦しみは後の樂の基になる。

7

く

区

名

○日本橋区

◎区役所

◎区長

△都市の正令の稱名（行政正劃）

○陸軍管区

○選挙区

△法令執行の目的で定められた土地の正劃

ク

○實に愚だな。

○愚にもつかぬこと

はかりしやう。  
~~金を使ふ~~

○實に愚の骨頂だ。

まは

ク

愚心

(名)

グ  
ア  
イ  
ゴ  
あ  
じ  
工  
合  
名

○ 体の工合が悪い。

○ 丁度工合よく彼は家におち。

○ 介話した様ふ工合でまた仕事はすんどおちい。

○ 色の工合極の工合はなかくよい。

○ ふところ(の)工合がわるい。



クイ  
くひ

〔悔〕  
名

○ 諸君はとつては又とない機会であるから後に

悔を(十)載(十)遺さぬやう十分見学して来て

貰ひたい。

○ 悔りない様充分働かう。

注意  
善通には後悔をつかぬ。



ク

イ

△ 急勢

ク

イ

〇

ト

ク

急

ニ

引

ク

副

様

〇

手

を

つ

か

ま

へ

て

ぐ

いと

引

張

る

。

〇

心

い

と

糸

手

を

突

出

し

た

経意

ク

イ

ト

の

形

で

用

る

。

ク  
イ  
イ  
ル  
ク  
ニ  
イ  
る  
食  
入  
る  
（地  
動  
う  
四  
）

○ 徽蘭が津中川  
食  
入  
つ  
て  
お  
る  
。

○ 食  
入  
つ  
て  
離  
れ  
な  
い  
。

○ 敵陣  
深  
く  
食  
入  
る  
。

の

イ

キ

ク

カ

区域

(名)

(名)

境界

○ 区域は定めらる。

○ 区域は。

申範囲

○ 指定区域がある。

○ 指定区域。

○ 停止区域。

○ 危険区域。



カ

イ

ク

キ

ク

イ

ク

イ

副

○ ぐ  
い  
ぐ  
い  
引張つて連れこ行く。

○ 酒をぐ  
い  
ぐ  
い  
飲む。

(酒) 外には殆どはな  
い。

クイコウ　クニ　ニ　ニ　食也　~~食也~~　(他)　知マ　田

~~ト~~ 腐食する。

○ 鑛(石) 鑛に食ひ込む。

○ 河川 土堆に食ひ込む。

~~ト~~ 侵又する。

○ 人の領分に食ひ込むは困る。

~~ト~~ 欠損をする。

○ 沢水本を食ひ込む。

○ 芝月は三千石を食ひ込む。

~~ト~~ 敵り陣に 得る食ひ込む。

クイコロス くひころす 〔食殺す〕 (他四)

○ナカノ虎が見物の子供を食殺した。

ナカノ、橋本が新聞に出た。

0

クイニハニ  
クビクハ  
クハ

食イハフ子

(他部之四)

口上達る食ウしハ子。

口上達る食ウしハ子。

口上達る食ウしハ子。

注意△  
速る食ウしハ子として大抵は用ひる

ル子。





クイナガウ  
△ひらがふ  
〔喰違ふ〕 (百八四)

○彼のすること。なすこと。は全部始めの考へ  
と違つてしまつた。

○かう意見が〜々違つては何時迄たつても相譲のまゝとす  
は此れ作も可なりとい。

○うまくはまる様みわけと喰違はせしある。

クイナラス　くいちらす　食散らす　(他サ四)

11 食つたものをこぼしちらす

○ 猫が皿の中の食物を食散らした。

(21) あちち比のものをかき、箸をつける。

○ テーブル上のものをあれこれ食散らすのは

お行儀が悪い。

△ 普通「セベちらす」

ク  
イ  
ワ  
ク  
ク  
ハ  
ツ  
ク  
食  
付  
ク  
他  
知  
カ  
四  
ク

(一) 随  
み  
つ  
く。

○ 大に食  
付のか  
れた。

○ 早に食  
付のか  
りと  
した。

(三) ~~報善~~  
組  
附  
く

○ 彼は食  
付のか  
らと  
謝  
小  
ら。

(105)

クイトメル くひとめる 食止め了 (他下二)

○消防隊の決死的活動によりて 危く延焼を食止

めた。 火事のひろがるの

○僅かな兵力で敵の大軍を食止め 防事が出

来たりは偏に皇軍の敢闘精神に據る

○この少年の献身の努力は、列車中の

衝突を食止めた。

クイモノ  
くいもの

〔食物〕

（九）

（俗）

△シヨクモツともよむ。人の食物を指す

場合にはタバモノが丁寧。

○食物が悪いと体が悪くなる。

○飲食物によく氣をつけよ。

○人の食物に作る。

△人に利用されてしまふ。

クイル  
くいる  
悔いる  
〔悔いる〕  
〔他上一〕

○悔いても帰らぬ事をくよくよするな。

○ ~~あの人~~ ~~は~~ ~~犯~~ ~~した~~ ~~罪~~ ~~を~~ ~~心~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~悔~~ ~~い~~ ~~て~~ ~~み~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~だ~~

から許してやって  
くはな

○ ~~悪い~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~心~~ ~~ひ~~ ~~り~~ ~~悔~~ ~~い~~ ~~れ~~ ~~ば~~ ~~其~~ ~~の~~ ~~人~~ ~~は~~ ~~救~~

はなす。

○ あんなに悪い事をしたがら一向悔いる様

子がな

ク  
リ

くら

食ふ

(他八四)

(一) 食べる。

○ 飯を食ふ。

△ 食べ言葉では有り、食ふより「たべる」の方が丁寧。

○ 食ふが食はれるかの戦。

○ いたがらをもする」と鬼は食はれませぬ。

○ 生活する。

○ これだけの収入では一家五人はとも食

つてゆけない。

○ 噛むかじら。

○ 蚊が食ふ。

○ 虫は食はれぬ。

④ しかととりつかし

○人の懐は食ひ下がる。

○自分の意見の通る迄食下がつゆく

⑤ 侵す

○人の領分は食ひ込む。

⑥ 欺かれる

○あの人に一杯くはすれむ。

⑦ 馬鹿にする

○あの人のかり方は全く人を食つたかりなり。

○それな人を食つた話はない。



クウカン

くうかん

空間

(名)

○時間と空間とは、~~共~~ 共に物質の存在を表す  
必要條件である。

○空間を利用すればもう少しいろいろと便利になる。

クワナ

空氣 (名)

○ 此の辺は田舎なので空氣がよい。

○ 空氣を吸ふ。

○ 高い山はのぼればのぼる程空氣はうすくなり、冷えてくる。

○ 空氣枕。

○ 空氣銃。

○ 空氣傳染。

人から

○非難される

(四) なじみ

○人から難をつけられる。

△此の場合には難癖の方を多く使う。

持頭証として用ひらるゝむづかしい。意を表明す。

グウグウ

ぐうぐう

(副)

△ ~~自軒~~ の様子。

○ 今寐たと思つた

朝遅くまで

寝て ~~自軒~~ の様子。ぬる。

○

と  
り  
と  
ま  
し  
て  
お  
し  
ま  
す

日本語教育振興會

( )

クウガン

空軍 (名)

(天)

所都は

○支那にある米國の空軍基地です。

○大東亜戦争に於ける空軍の働は實にあが

ま。

○各國並に空軍力の増強につとめる。

ク  
ウ  
コ  
オ  
  
ム  
ウ  
カ  
ウ

空港

(名)

(文)

旅客機用の飛行場 (新聞用語)

△ 口語では飛行場が普通。

○ 羽田空港

( )

クウシユウ  
クウシム

空襲

〔名〕(一)す。(二)地す。

○夜の空襲がある。

○敵の空襲を受ける。

○敵の陣地を空襲する。

○空襲警報 空襲管制

( )



カ  
ウ  
ス  
ウ

偶  
数

( 名 )

△ 二で割りきれぬ数。

△ 奇数に対する語。

○ 二、四、六は偶数である。



( )

クウゼン

くうぜん

空前

(五)

(六)

○昨夜の會は空前の盛會であつた。

○かゝる大戦争は史上空前であるばかりで

なく恐らくは又絶後であらう。

○かゝる大戦争は空前絶後の事であらう。

( )

ドウゼン

偶然 (五) (副)

20 あり方と<sup>今朝</sup>偶然電車の中でお倉のしきした。

10 あんはに ~~丹~~ <sup>うま</sup> ~~ま~~ <sup>く</sup> いったのも全く偶然です。

30 多の時偶然に <sup>その通つて</sup> ~~その~~ 事件が起つたのだ。

40 この様を大勝利は法として偶然では無い。

中偶然論と運命論